

四季の豊かな自然のなかに、札幌の歴史と文化を内包する「中島公園」に、
不思議な妖怪たちがあられ、パフォーマンスを繰り広げる。

都市の均一化・均質化が進むなか、「中島公園」という市民が憩う文化エリアに着目し、そこに「妖怪」という異形を登場させパフォーマンスを展開することで、札幌ひいては北海道の歴史性を顕在化させると同時に、今私たちが暮らすこの地の重層性を子どもたちや市民と楽しみながら発見していきます。

「妖怪」を創る妖怪師！

構成：斎藤歩（北海道演劇財団芸術監督）
俳優、演出家、劇作家



妖怪フィギュア・アート・シアター
なかじまこうえんひゃくものがたり
中島公園百物語

「妖怪」は君たち！

小学生・中学生・高校生を対象に参加者を募り、中島公園周辺地域をフィールドワークし、この地域と札幌の歴史を見つめ、現在を見つめ、子どもたちの視点で妖怪を発想して立案してもらいます。子どもたちから出てきた妖怪プランを、妖怪師の「斎藤歩」が台本として構成し、「沢則行」がフィギュア・アートと人形創りのワークショップをおこない、パフォーマンスとして中島公園内や札幌こども人形劇場こぐま座、扇谷記念スタジオ・シアターZOOなどで発表します。

フィギュア・アート・シアターって何？
フィギュア・シアターは、「フィギュア（形態・形状）」を用いた舞台です。つまり私たちがよく見る人形劇（パペット・シアター）より人形の範囲・概念がとても広く、人形だけでなく、仮面、モノ、素材、影絵、照明、音楽、ダンス、マイム、演劇など、多様な形態・形状を用いて、何かオモシロイ舞台を創ろうじゃないか！と、東欧のチェコやポーランドの歴史的背景の中から誕生した舞台表現です。

人形指導：沢則行（人形師）
チェコ在住のフィギュア・アート・シアター人形師



中島公園にはこんな「妖怪」がいるかも

妖怪・はじめてラジオ JOIK

札幌中央放送局（現 NHK）が 1928 年、昭和 3 年 6 月 5 日に中島公園から北海道で初めての放送局として JOIK というコールサインで放送を開始した。それ以来、沢山の電波をここから送り続けた。昭和 20 年 8 月 15 日の玉音放送もここから全道に放送された。テレビ塔が建った後は大通に移り、その放送局は取り壊されてしまったが、妖怪として中島公園に生き続けている「はじめてラジオ JOIK」。今も時々中島公園の片隅からひっそりと電波を出しているらしい。妖怪・はじめてラジオの電波をキャッチできるか。

妖怪・まぼろしオリンピック

IOC の正式決定を受けて、1937 年に準備を開始した日本で初めての冬季オリンピックは、1940 年に札幌で華々しく開催されるはずであった。中島公園ではスピードスケート、ホッケー、フィギュアなどのスケート競技が行われるはずだった。しかし、太平洋戦争の影響で中止となってしまった。それ以来「妖怪・まぼろしオリンピック」は中島公園に生き続けている。今も夕方、菖蒲池のほとりにしよんぼりと腰をかけ、手稲山に沈む夕陽を見つめながらため息をつくのである。他の妖怪が「1972 年に札幌でオリンピックやったから、もういいじゃないか」と慰めても、「中島公園では何の競技もやらなかったべや」と不満げにつぶやくのである。「あの戦争さえなかったらなあ…。今、私たちは彼にどんな言葉をかけて慰めることができるのだろうか。」